■現地研修８日目：　７月１６日（日）

研修８日目。本日がアメリカ滞在の最終日、ニューヨーク（マンハッタン）での見学研修、及び研修の締めくくりとして現地で活躍する日本人の方々との食事会（懇談会）が実施されました。

朝 8 時、生徒たちを乗せたバスは、日々の葛藤や苦悩から自分を見つめ、個々とチーム全体の課題に向き合い、同時に多くの出会いから将来への糧を得たタフツ大学を後にいたしました。４時間半ほどの長時間移動後、バスはセントラル・パークにほど近いホテルに到着しました。

荷物を預け、世界三大美術館の一つ「メトロポリタン美術館」へと出発。その収蔵品は 300 万点を超え、さっと展示物を見て回るだけでも３～４日、一つ一つの作品について深く理解をしつつ眺めると、なんと数年を要するとのこと。バスの中から高まる生徒たちの期待、バスが到着し目の当たりにしたその外観の大きさと威厳にまず圧倒されていました。早速、３グループに分かれてのガイド（英語）ツアースタート。いくつかの作品について分かりやすく説明をしていただいた美術館専属ガイドの話にしっかりと耳を傾けながら、40 分ほど館内を巡りました。その後は自由見学。待ってました、と目当ての作品に向かってまさに一目散、館内奥深くへ走っていきました。収蔵品の数からすれば本当にわずかな数でしょうが、１時間半ほどの自由鑑賞を堪能したようです。

美術館を出発したバスはマンハッタンを縦に走り、9.11 モニュメントを訪れるべく「グラウンド・ゼロ」跡地へ。もちろん事件当時を知らない生徒たちですが、バスガイドさん自らの体験を踏まえた説明を受けての見学では、その厳かな雰囲気と弔う人たちの姿にそれぞれ何かを思いながら歩いていたようです。その後、最後の訪問地となる「国連本部」へ。全体での写真撮影をしたのち、ホテルへと向かいました。

さて、いよいよ本アメリカ研修最後のプログラム、そしてハイライトの一つ「ニューヨークで活躍する日本人の方々との懇談（食事）会」を実施いたしました。４名のゲスト（IT 通信、キャリア・カウンセリング＆アドバイザー、アーティスト、物理学研究者）の方にお越しいただき、約２時間に渡って丁寧で温かいアドバイスを頂戴いたしました。各テーブルともゲストの皆さんの気さくな雰囲気のおかげで、生徒達も終始リラックスして話を楽しんでいました。折に触れて、また生徒の質問に対して真摯に、今すべきこと、考えるべきこと、そしてチャレンジすることの大切さ、失敗をしてもまだやり直しが効くことなど、熱いアドバイスもいただきました。ボストンで出会った多くの日本人からのアドバイスとも共通する部分も多く、各テーブルでの質問は止むことがありませんでした。「ここニューヨークでは（特に大学、社会）、自分を伝えなければ、自分からアピールしなければ理解してくれない。もちろん単にアピールするだけでなく、『これだけやっている』という自分がまずあり、それを伝えなければ、評価されない。」と厳しい言葉も。ボストンでの研修でも、英語クラスでの他国生との交流や、カフェテリアでのアタックの場面、チーム内での投げかけなど、常に発信が求められ、その都度自分の力の無さを突きつけられ、葛藤を重ねた生徒たち、改めて強く考えさせられたのではないでしょうか。

各ゲストの皆さんの話から感じる自信、説得力、それは多くの挫折と失敗を乗り越え、幾度も自らと対峙し今に至る経験からのものでしょう。本研修の目的の一つとして、「多くの失敗をする」がありました。その意味では、研修ハイライトとしてゲストの皆さんとの懇談会は、研修全体の意義を改めて咀嚼し、帰国後や将来を考えるための良い機会になったのではと感じます。会の最後、ゲストの一人から「皆さんがこれから社会に出て、自分たちと闘うと思うと、楽しみ、いや恐ろしい（今日感じた熱意と能力から）とすら感じる。しかし、それ（恐ろしいというのは）は本当に嬉しいことで、自分も負けてられないと強く感じた。今日参加してよかった。」 また、別の方からは、「アメリカから見る最近の日本は、特に若い世代は大丈夫だろうか・・と正直感じていたが、今日のみなさんを見て“日本は絶対大丈夫”と感じました。」との本当に嬉しいコメントもいただきました。

会の最後、自ら挙手してくれた２名の生徒より、ゲストの方への感謝の言葉が伝えられました。そこには、本日の懇談会及び研修全体を振り返っての自分自身の思い、将来への決意が込められた強い気持ちが込められ、研修を締めくくるに相応しいコメントでありました。